

第38回天台宗檀信徒祖山参拝研修会

【結縁灌頂入檀及び群馬教区研修会】

写真集



第38回天台宗檀信徒祖山参拝研修会 平成21年10月29日～30日

御 旅 行 行 程 表

天台宗群馬教区檀信徒比叡山研修会 様

平成21年9月4日
群馬県知事登録旅行業第2-272号

上州観光サービス株式会社前橋営業所

群馬県前橋市南町三丁目21番地の8

総合旅行業務取扱管理者：五十嵐彰

担当：小林大介

TEL:027(243)2626/FAX:(221)3193

御 旅 行 先	期 間	御 人 数	備 考 / 利 用 附 設 名
比叡山、鬼神温泉	平成21年10月29日(木)～10月31日(土)	20名様	上州観光バス中型(27名乗り)1台
1	10月29日(木)	(発)6:00	天台宗群馬教区=前橋IC、<関越道>、藤岡JCT、<上信越道>、東部湯の丸SA(休憩)、軍畑JCT、 <長野道>、梓川SA(休憩)、厩谷JCT、<中央道>、駒ヶ岳SA(休憩)、小牧JCT、<名神道>、 多賀SA(自由屋敷)、京都東IC=<比叡山ドライブウェイ>=比叡山延暦寺会館(到着、宿泊) (着)13:20頃
2	10月30日(金)	(発)13:00	<中央道>、厩原IC=鬼神温泉(宿泊) (着)16:30頃
3	10月31日(土)	(発)8:30	ご宿泊場所=信濃比叡(根本中堂・広経院護摩堂等を見学)=飯田市= =水引工芸館(見学)=元善光寺(見学)=松川IC、<中央道>、駒ヶ岳SA(自由屋敷) 10:15～10:45頃迄 11:05～11:50頃迄 12:20～13:00頃迄 伊前IC=<権兵衛トンネル>=奈良井宿(日本一の木曾路宿場町を散策)=埴原IC、<長野道>、 14:00～15:00頃迄 姥捨SA(休憩)、<上信越道>、横川SA(休憩)、<関越道>、前橋IC=天台宗群馬教区 (着)19:30頃予定

※上記行程は道路状況、天候などによって時間等が変更になる場合がございます。



駒ヶ岳を背に駒ヶ岳SAで



内津峠SAで



琵琶湖背景に大津SAで



比叡山背景に大津SAで



比叡山駐車場に到着



研修会場は大ホール比叡



講師・小堀光實副執行



昼食時の食前観・食後観



夜間講義・高川慈照師



金剛院特派員(堤氏のカメラ)



延暦寺会館玄関前で渋川の参加者と



番号順に整列・延暦寺会館前



延暦寺書院拝観・説明役は山本光賢副執行





延暦寺書院に掲げられている由緒ある書の数々



天皇皇后両陛下の御登山記念



山本光賢副執行の語る歴史的説明



大国堂



満拝堂



大講堂



大講堂拝観



灌頂堂



法華総持院東塔



阿弥陀堂



戒壇院



結縁灌頂を終えて



今村次長・林主任と



紅葉が始まった物静かな昼神温泉風景



大広間で始まる男だけの宴席風景



今村次長あいさつ



林主任あいさつ



昼神温泉ホテル天心前で



信濃比叡参拝駐車場門前屋前で

信濃比叡

イベント案内



2月11日
大元堂三昧（大渡護摩）
信濃大師の御遺徳を、毎年2月11日、天台宗僧侶の御指導で大元堂三昧（大渡護摩）が行われます。あまゆる見聞を仰ぎ、御徳を平生に御傳承します。本願院の正堂は民間委託（民営化）の御徳を、大元堂にておこなわれます。護摩を聞いた方々の正念を御指導で御徳を御傳承します。一般の人々も参加できます。



11月23日行幸の御徳越え



平安時代のはじめ、弘仁八年（八一七）に天台宗開祖の最澄が東国布教のため信濃に入ってきました。しかし途中の道が険悪なため、神坂峠の信濃側と美濃側の両方に旅人を救済する本願屋（本願院）、「応清院」をつくりました。月見堂が本願院跡と伝えられています。弟子仁志が著した「叡山大師伝」には次のように記されています。

「大師東征の日信濃版に赴く。其の版数十里なり。雲を踏み、溪に跨がり、露を踏んで路を築くに、馬はあがきて風を喰ひ、人は吟きて氣を吐き、雨一日の行程に飽かず。ただ半山に宿してわずかに翌日に達す。大師この版の難難にして往還に宿無きを見て、誓って応清、本願の両院を置き、妙跡に使わらしめ、公私の播すること無からしむ。美濃の境内を応清と名づけ、信濃の境内を本願と名づくるなり。東上の事了りて、路を成らし都に向かう。（注、妙跡は登り下り）」

このような事実から、この地は比叡山とは大変聞き深い地となり、平成12年6月「信濃比叡」の呼称が授けられました。

教済施設を建てた伝教大師（最澄）



比叡山延慶寺に建立されているものと同一の尊像です。東国を向いて建立されています。高さ六メートル 台座七メートル

伝教大師像

駐車場にある案内看板

信濃比叡 根本中堂



信濃比叡案内しおり



根本中堂入り口の石碑



伝教大師像前で



晴天の参道を行く



照于一隅の石碑から根本中堂へ



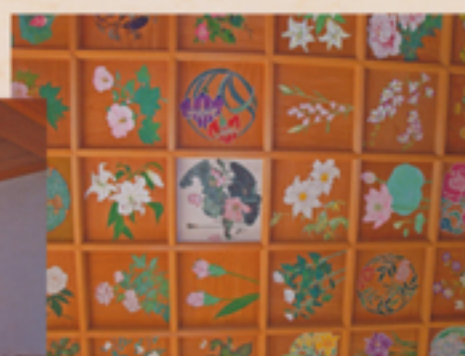
根本中堂と如来堂(左)



落慶法要のいわれと写真



根本中堂祭壇の薬師如来像



根本中堂の天上絵



如来堂も参拝



如来堂本尊の善光寺如来



千手千顔観世音菩薩像



伝教大師遺跡広極院(左右)



みやげ食事どころ門前屋(右)





駐車場から石段へ



石段途中の山門暖簾をくぐる



長い石段を登ると本堂



宝物殿の涅槃像



自作クロスを読む住職



上り口のどでかい看板



堂々たる本堂の容姿



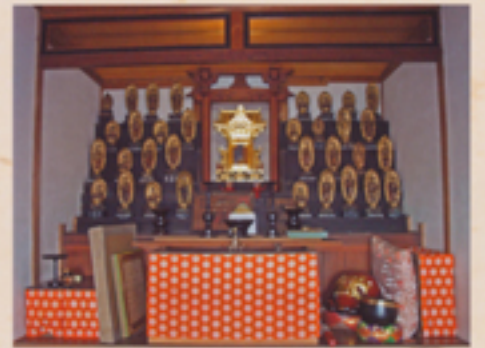
ご開帳観光パンフ



本堂に掲げられた金文字の額



本堂の本田善光誕生霊地の額



戦争英霊を祀る33観音像



平和殿の庭園から町並みを見る

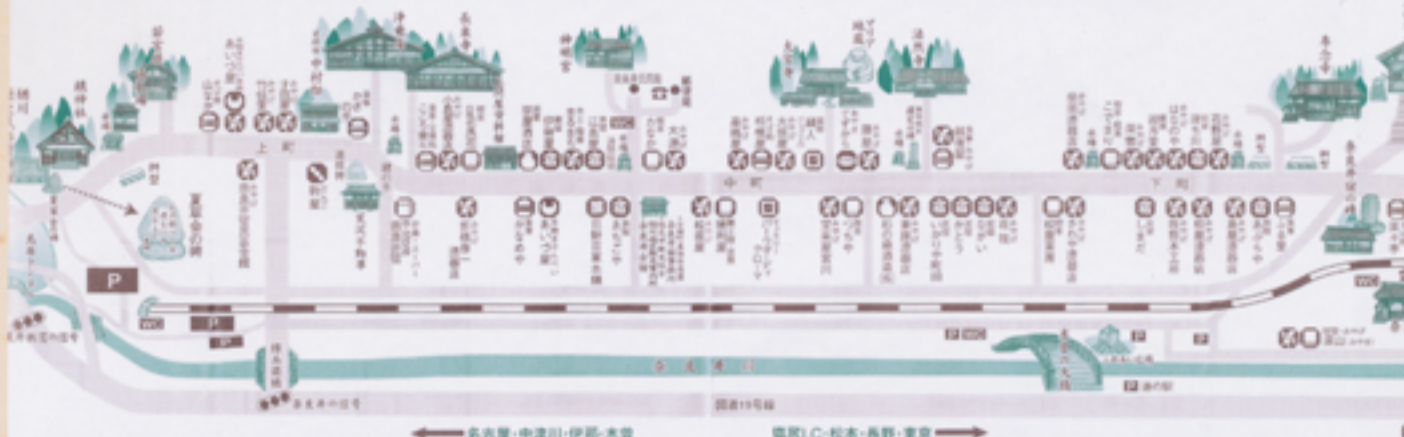


第39世住職のユニーク名刺

文部科学省選定重要伝統的建造物群保存地区
中山道—奈良井宿ご案内図

日本一の宿場町

●平成元年——手づくり職士具
 ●平成19年——美しい白木の風土百選



◆奈良井宿保存のあゆみ◆

奈良井宿は高尾峠上りの精神科を客制りの入印とし、奈良井川に沿って現中川に下りながら約1キロメートルの中山道沿いに町並が形成されている。江戸時代末一帯は宿場通りです。昭和43年、従来の民家として高い評価を受けた

中村印は、川崎守、日本民家園への移設が決まっていた。しかし、奈良井の地にあってこそ存在意義があるとの考えが押さえて中川、宮・民・中継宿者が一体となり、身近な歴史の遺産の再確認、継承、維持のための努力が展開されてきた。これは、日本における歴史的景観保護再生への取組みの一例でもあった。昭和50年に文化財保護法が制定され、伝統的建造物群保存地区制度が導入された。これにより平成元年に奈良井宿町民会が指定され、それをもとに昭和53年2月に保存条例が施行された。同時に地区の保存計画を定めた同年5月31日には国の重要伝統的建造物群保存地区（重要伝統的建造物群保存地区）の指定を受けた。それを契機とした現在の人々の地域づくりにおける意識の集約・統合等ともいえるものである。

平成20年3月現在では、全国で33地区が指定されている。平成元年「手づくり職士具」全国大会大賞より受ける。平成19年日本の歴史的風土を伝える「美しい日本の歴史的風土百選」に選定された。

The beautiful Kiso road
 During the Edo and Meiji periods, the town of Naraikyo (the seven four villages from the Kiso Road) are well known as particularly in Naraikyo like the view of the houses built using white wood that is the small village in the mountains.



奈良井宿名所「鍵の手」



御休泊どころ伊勢屋



時代劇セット風の町並みを行く



昭和13年製の蒸気機関車



散策を楽しむ人たち



臨濟宗大宝寺・マリヤ地蔵入口



今は駅舎もない旧駅名

信濃比叡根本中堂と鐘楼



子地藏

写真集作成：須藤 充